

# 哲学者・クロサキ教授のレコード再発見 LINN LP12改造記



サウンドクリエイトでお馴染みとなったイベント「オーディオ哲学宗教談義」。

宗教学者・島田裕巳氏と、毎回新鮮な角度からオーディオを考察し対談される哲学者・黒崎政男氏。

黒崎氏がLINN LP12でレコードを再開されて2年。

その間にスタンダードから最上位モデルまで駆け上ったLP12改造記を数回にわたりレポートしてまいります！



## 「アナログはもういない!」から20年、アナログ回帰まで

遡ること50年前、15歳からLPレコードの再生に苦心していたという黒崎氏。院生時代は秋葉原に通いつめ100台を超えるアンプを製作。業務用までの様々なターンテーブルを使ってみるものの、どうやってもうまく鳴らない。「ステレオLPというメディアそのものが歴史的失敗作だと思った」。その思いから次第にモノラルLPがメインになりますが、CD登場まではかろうじてレコードも手元に残してあったとか。しかし、90年代後半に出会ったSP蓄音機のエネルギー感に完全にノックアウト。ステレオ装置への熱はすっかり冷めてしまい、簡単に再生できるCDだけ残し、すっぱりアナログとは縁を切ってしまったのでした。

LPを捨てて20年、氏のLPレコード回帰の裏には、ハイレゾ再生、そしてLINN DSMとの出会いが欠かせないきっかけとなっています。2011年、「ハイレゾ」「PCオーディオ」という言葉が広く話題に上るようになった頃、この波を逃すことなく「LINN KLIMAX DSM」導入で「オーディオ熱、再び」となりました。これについては当時、日経新聞の文化欄にも寄稿され、弊社のお客様の間でも話題になりました。

細やかにメンテナンスされた蓄音機・・・英国HMV202、EMGinnエキスパート、米国クレデンサ、果てはエジソンの蝋管式まで。片や最新・最先端のオーディオとしてLINN DSMがあり、氏の気持ちにLPレコードの入る余地は未だなく、LP回帰まではDSM導入後、5年を待たなくてはなりません。

アナログブーム真ただ中の2016年3月、ふとした思い付きのように「ちょっと使ってみよう」とLP12をご指名されたのは、長い冬の終わりを思わせる春風のような出来事でした。そして、あれよあれよと3ヶ月の間にフォノイコライザー、アーム、サブシャーシ、電源・・・とLP12を進化させていかれたのでした。

▶次頁、黒崎氏手記よりLP12改造記スタート